三池炭鉱主婦会
※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　下川秀子

生活の重圧と闘う
驚く働いても喰えぬ賃金

合理化による低賃金でいま私たちの家庭では生活との血みどろのたたかいがつづいています。さまざまな工夫をこらし各家庭でそれぞれのたたかいをはじめていますが、何回かに分けて生活の実態にふれてみたいと思います。

生活破壊の低賃金

就労いらい会社は企業合理化の延長として、われわれにあくどい差別をおしつけて、一方ではそれによって組織を切りくずし、そして収奪をつよめています。

合理化による低賃金に加えて、不当な差別待遇はわれわれの生活をますます圧迫し、ギリギリの生活に追いつめ、生活とのたたかいのため主婦の大半は馴れない内職に追われています。

職場での抵抗の闘いと家庭での生活の闘いは異つたものではなく、一つのものであり、苦しくともこれを乗り切らねばわれわれの展望は切りひらかれません。みんなは苦しい中にもあらゆる創意工夫を生活の武器として、毎日毎日をたたかつていますが、今回は本所支部の組合員の家庭を訪れてみました。

満勤で一万六千円

宮原社宅の平川務さん（37才・機械工）を訪れてみたが、ここは奥さんの富江さん（39才）と三人の男の子（中学一年、小学二年、四才）の五人家族。

ご主人は三番方で家におられたが、奥さんは内職に精出されたとみえ、あわててその辺にちらばつている縫物を片付けて案内された。

早速ふしつけだが収入の面をたずねた。なお参考までに記すと平川さんは昭和二十一年に入社の勤続十六年でした。

十一月の収入が二十七万出勤で総計一九、〇三一円。これには連勤二万がふくまれています。手取りが一四、四〇〇円。

十二月は二十九万で同じく連勤二万をふくみ総計二〇、九五三円、手取りが一六、六〇〇円。満勤してやつとこれだけであるが、それでも本所関係としては三交替という面でも平均よりはずつと上回つているのです。

毎月赤字の連続

つぎに支出の面を記しますと、まず主食だけで五、五〇〇円。中学生を頭に男の子ばかりで一番の食いざかりです調味料と日用品で一五〇〇円、燃料費（石油）三〇〇円、給食・学用品・修学旅行積立費など学校関係で一、七〇〇円、副食費六、〇〇〇円、ご主人の交際費と小遣い一、五〇〇円、鳩の餌代二〇〇円、子供の小遣い四五〇円、新聞代二九〇円、テレビ一〇〇円、月賦一、〇〇〇円、ここまで計算してゆくともう収入額をはるかにオーバーして一八、五四〇円となつていました。

だが、これだけは最低どうしても平川さんの家では毎月必要額なのです。

このほかまだテレビの月賦もすんでいないし、子供たちの新学期ともなれば二人で本代だけで、一五〇〇円はいる、衣類代にしても月賦で買つてそれを毎月一、〇〇〇円づつ払つているが、今の状態だと大人の衣類までは全然といつてよいほど手が出ないし、医療費も全然ないありさまです。

結局、どうしても二万円は欲しいというのが平川さん夫婦のいつわりない声でした。

亡父の一周忌にも行けぬ

去る二日は亡父の一周忌に当り兄弟たちから来るようにいつてきたが、余分な金は一銭もない泣くにも泣けずとうとう行けなかつたそうです。どういう状態では世間なみの交際などとてもできないと平川さんはいつていました。

冠婚葬祭にもいきおい遠慮し、遊ざかるより外はない今の生活状況です。

一番下の子供さんは普通なら保育園にでもやらなければならないが、一年しかやりきらぬと、今年までは見送つています。

娯楽費といえば今の所テレビだけ、このテレビも近所の第二組合員との問題や、子供たちのためにやつと目をつぶるような感じで買つたものだそうです。

映画など一年か二年に一回、新調の洋服や靴などこの何年か全然つくつていなく、それ所ではないそうです。給料前に長男が鳩の餌代をせがむときはとても辛いとは奥さんの言葉でした。

内職で月二千円

それでは毎月の赤字はどうするかというと、今まではボーナスをこれにあて月々ゆづくつていたが、去年の暮のように分割払いともなれば計画は完全に崩れ、今月は仕方がないからとうとう姉さんから五、〇〇〇円借金しています。

なるだけ切りつめるために燃料も節約して消費し、たまつた分を三〇〇円位で売つたり、米や副食・日用品などを交替で掛買いするなど苦辛惨たんでやりくつている内情です。

いくらかでも家計の足しにと奥さんも内職をはじめているが、暮しの会の板井さんから内職センターの仕事をもらつており、これが日に一〇〇円ぐらい、センターのものがないときは洗濯屋の洗い張りの継ぎ縫い仕事、四〇円ほどになるが、両方合せて月に入るのが二〇〇〇円もあれば上々という。

奥さんは「もう少しよい内職があれば…」ともらしていました。

最初のころは内職で入つてくる金に喜んでいたが、結局わが身に仕事の無理がふりかかつてくることになり、内職はあてにできない。一万七千円でもよいから毎月きまつて主人の収入が入つてくれればと切実についていました。

理解こそ大切

ご主人はこの内職について「できるものなら私も加勢したいが縫物ではそれもできない。妻の内職のわけが十分わかつていながら、たまには疲れて帰つてみると内職物で家が一杯になつており文句をいいたくなるときもあります。やつぱりお互いに理解し合わねばとつくづく思いました」としみじみもらしていました。

職場では今でも連動は第二組合ばかり、少しでも仕事をふやすために係員には仕事の面ではどんどんいうことにしているそうです。平川さんの所では十二人おり三池労組員が三人で九人は第二組合員、第二組合員との賃金差は五、〇〇〇円という。

苦しさには負けられぬ

こういう苦しい生活の中でも子供たちは五円（一日）の小遣いで不平もいわず、父親をよく理解しすくすく健康に育つています。

平川さんはいまもつぼ盆栽に趣味をもつて、プラプラしていれば金がいるばかりだと、家の前に盆栽をつくつて楽しみを自分でつくり出しています。

夫婦とも前の三池労組にかえす使命が私たちにはあるのだと、苦しい中にも信念をますますつよくして、職場や主婦会の集会、行事にも全然苦にならぬといつて笑いとばして話してくれました。そして「近ごろ生活の苦しいこともあんまり苦にならなくなりました」とたくましい労働者根性を自信たつぷりに示して、今日もたたかいをつづけています。

困窮者を激励
本所婦人講座でカンパ

主婦会本所支部では闘争前から「婦人講座」をもつて、主婦としての学習をつづけていますが、去る五月婦人講座の代表五名が、カンパ物資をもつて大牟田市上内の上津原兼男さん方に激励の訪問をしました。婦人講座では「ことしはまず明るい社会をつくるための実行動をおこそう」ということをきめ、そのあらわれとして組合員の中で病床にある人のなかで、いま一番苦しい状態にある人に何とか救援の真似ごとでもできたらと調査し、この上津原さんにきまつたものです。

上津原さんは奥さん（子供三人の五人家族。闘争前は肺をやられて入院していたが、闘争直前に退院しており、三池闘争ではともにスクラムを組んでがんばつた人でした。それが就労後、こんどはじん臓をやられ寝たきりの生活がいまにいたるまでつづいているのです。不幸なことには奥さんも高血圧で倒れたがさいきんはいく分よくなり、近所の野良仕事の手伝いをされるまでになつています。

一家の大黒柱が倒れてからは家庭は極度に悪くなり、奥さんが近所の手伝いなどやつて何とか切り抜けてきたが、その奥さんも過労のため倒れるという状態でした。

切りくずしはねのけ闘う上津原さん

生活保護の申請もされたが、なかなか入れられなく、やつと来月あたりから受けられるようになつたといわれます。

病床にあつても執ように職制の切りくずし説得があつたがあくまではねつけ、近所にすむ肉親（第二組合）も説得にきたが聞かないので、今では何一つ世話してやらないという中で、がんばつているのです。家の中は、それこそガランとしていましたが、子供たちは労働者として信念を失わぬ両親の愛情によつて、明るくすくすくと育つていました。

主婦たちは早速持参の子供の衣類米、菓子、カンパ金を届けました。

上津原さんは床の上に起上つて「体も大分よくなりました。職場の人たちも心配して何かと世話して下さるし、こんなものを愛けて何といつてよいやら……しつかりがんばつて下さい」と声もつまりがちでした。

この日激励した主婦たちは「人を助けるという私たちの現状ではありませんが、そういう中にあつても各自でできるいくらかでもものことをしたいと思つてやつたまでです」と語つていました。

物価値上げに監視委
総評主婦の会のり出す

また愛知県労評主婦の会の物価監視委員会の立派な活動の例も感銘を与えました。ここでは名古屋中央卸売り市場を調査した結果、独占七社が年間十三億七千万円も利益を得ていることがわかり、荷受け会社を追及したりしてセリ相場を三割がた安くさせました。また団地付近の商店は一般より安く、これは集団的な批判のせいだということも調査の結果わかりました

あとを絶たない物価値上がりを押さえようと、総評主婦の会のお母さんたちと、各地評のお父さんたち計二百人の合同会議が二月二日東京の中労委会館で開かれ今後の方針などを熱心に話し合いました。

この日の会議で総評の塩谷幹事の提案にもとづいて決められた今後の方針はつぎのようなものでした。▽二月十七日に関東、関西、九州東海の四拠点でパレードやビラまきなどの物価値上げ反対統一行動を行なう。▽二月十日から「物価値上げ反対の一千万人署名」を展開し、二月二十五日に第一次中央集会を行ない、二十七、八両日に「物価値上げ反対の国会請願」を行なう。▽物価監視委員会をつくつて、価格と間接税の店頭表示を求めたり、市場、問屋の調査を行なう。▽組合員一人十家庭を目標に「物価値上げ反対」のステッカーをはる。

貴重な経験を交流

なお集会ではこの方針の決定にさきだつて各県からつぎのような貴重な運動の経験が報告されました

安眠

昨冬十二月二十四日出交の十三回忌でお寺詣りをしたとき、小学校五年生の長男を同伴しました。

そのお寺の二番目の娘さんがこの春結婚される話を聞いてその夜はお寺に泊りましたが、床についてから長男いわく「お母さんはいつ結婚したつね」「昭和十七年二月十四日だつたよ」「どつちが先に好きですと言つたね」ということから始まり、仲人さんはだれか、どこで結婚式をあげたか、結婚写真がないじゃないか、どこに新婚旅行したかなどの末「だれでも写真撮つたり旅行しているから、来年からは記念の旅行をして写真も撮らんね」というのです。

電燈を消して暗いのでよかつたのですが、この長男の質問には私もいささか赤面したようでした。そこで私は「そうだ、これから一泊旅行でもしようかな。旅行は好きだし、金さえあればよいから」と思いました。がその金です。

基幹産業といわれる私たちの仕事である石炭掘り。だけどそれがあろうと思います。その目的計画には金を必要としないものはないと思うのです。

そこでみなさん、お互いに体を大事にして、労働量に匹敵する賃上げをかくとくしようではありませんか。

資本家どもは「労働者はわれわれのいいなりに働くもの」と思い込んでいるのですから、それを打ち破る力は団結よりほかにないのです。団結は私たち労働者の武器です。しつかりがんばつて旅行の出来る金が残るように、したいと私は思つています

奥さんが内職して一生懸命稼がれるのも結構ですが、根本問題はやはり、夫たちの賃上げを生活の出来る給料を、心配のない子供たちの学資を手に取るようにがんばろうではありませんか。

物価は池田勇人さんの所得倍増の一声で、一足お先にさつさと上つてしまいました。期末手当はいままでにない二回払い、他山にない六割の年内支給というか酷なやり方、だのに物価はものすごい上りぶり、終戦当時の暮しよりずつと悪いものです「みんな私が悪いのよ」と反省する池田の声は聞えず……

さあ手を取りあつて賃上げにがんばりましよう。努力を惜しまずがんばりましよう。

結婚記念旅行と賃上げ

三川支部　猿渡ハギエ

すし、あるいは婚約時代から新婚当時の楽しさをこのことによつて思い出したようでもあります。

まだ小学校五年生の、しかも男の子からこんな質問をうけようとは夢にも知らないことでした。

暑さ寒さをしのぐことも、栄養をとることも考えねばなりませんが、人それぞれの目的、計画

＝詩＝

〃壁〃

宮浦支部　高椋龍生

この世の中は
きびしさと苦しみで
いつぱい。
部厚い壁の裏側は
蜜のように甘い香りの漂う
しあわせで
いつぱい。
一匹のアブと化つた私は——
羽根をすり減らし、
口から血さえ流し
無表情にツンとすました
壁に向つて
一塊ずつの穴をほぐす。
（三七、二、二—誕生日に—）